

創世記12 創世記6章1節～8節

「洪水の背景」

イントロ：

1. 前回までの復習

- (1) 創世記には11の区分（トルドット）がある。
- (2) 創世記5：1～6：8は、第2のトルドット。
- (3) 第2のトルドットの前半 アダムから10代目のノアまで。
- (4) 後半、「洪水が起こった理由」

2. メッセージのアウトライン

- (1) 雑婚の内容
- (2) 神の反応
- (3) 雑婚の結果
- (4) 神の介入
- (5) 恵みの要素

3. 悪霊に関する予備知識

- (1) 自由に活動する悪霊たち
- (2) 「底知れぬ所（穴）」（アブソス、英語でアビス）に閉じ込められている悪霊たち
 - ①ルカ8：31
 - *レギオンが「底知れぬ所に行け、とはお命じになりませんように」と懇願している。
 - ②黙示録9：1、2、11、11：7、17：8、20：1、20：3
- (3) 「暗やみの穴」（タータラス）に閉じ込められている悪霊
 - ①Ⅱペテロ2：4～5
 - ②シオールの中にある永遠に悪霊どもを閉じ込めておく場所
 - ③悪霊は、ここから出ることなしに、白い御座の裁きを受け、火の池に投げ込まれる。
 - ④洪水の前にある特定の罪を犯した墮天使たち。

3. きょうのメッセージは、私たちに何を教えているか。

- (1) 悪霊の存在とその働き。
- (2) ノアの洪水が起こった必然性。
- (3) 裁きの中に働く神の恵み。

このメッセージは、「ノアの洪水」が起こった必然性と、そこに働く神の恵みについて学ぼうとするものである。

I. 雑婚の内容

1. 1節：人類（アダム）の広がり

- (1) 人類全体、男女含む。
- (2) この「アダム」をカインの家系に限定することはできない。
- (3) 5章は男性に焦点を合わせ、6章は女性に焦点を合わせる。

2. 2節：通常解釈

- (1) 不信仰の系列と信仰の系列の雑婚と見る。
- (2) それには疑問が伴う。
 - ①神の子ら（セツの系列）の男と、人の娘（カインの系列の女）の結婚だけしかない。
 - *通常は、それとは逆のケースもあり得る。
 - *例として：信者の男性と未信者の女性、未信者の男性と信者の女性
 - ②人間の雑婚という解釈は、教会教父から始まった。アウグスチヌス。
 - ③ヘブル語で、「神の子ら」とはどういう意味なのかを考える必要がある。
 - ④文脈は、洪水が必然的なものであったことを説明しようとしている。
 - *洪水の原因は、不自然な出来事、極めて異常な出来事が起こったことにある。

3. ここでの雑婚とは、墮天使と人間の女との雑婚である。

(1) 「神の子ら」（ベネイ・ハエロヒム）

- ①常に天使を指す。
 - ②良い天使も墮天使も。ヨブ1：6、2：1、38：7。
 - ③力ある者の子ら（ベネイ・エイリム）。これも天使を指す。詩篇29：1、89：6。
 - ④いと高き方の子ら（ベネイ・エルヨン）。これも天使を指す。詩篇82：6
 - ⑤神の子（バル・エロヒム）（アラム語）。これも天使を指す。
- (2) この解釈を嫌う人は、例外規定を設けるが、合理的な理由がない。
 - (3) 天使は、神によって造られたので、「子ら（sons）」と呼ばれる。
 - (4) 新約聖書に入ると、「神の子」は天使以外も指すようになる。
 - ①ルカ3：38 アダム
 - ②ヨハネ1：12 信者のこと。
 - ③新約聖書の例でも、神によって直接作られたという要素は残っている。
 - ④例外はイエス・キリスト。「そのひとり子」。永遠に存在している。

(5) これは、昔からあるユダヤ人の解釈である。

① ヨセフス 173年 「ユダヤ古代史」で「天使」と解釈している。

* 英語版ヨセフス全集の脚注に、この解釈は古代世界では一貫していたとある。

② クムランの書の中の3書

③ エノク書(偽典)

(6) 「人の娘たち」とは、人間の女性。カインの系列も、セツの系列も含む。

(7) 「いかにも美しい」 性的ニュアンス、罪の思い。

(8) 「好きな者を選んで」 墮天使と人間の雑婚。

4. 天使は結婚するのかという疑問

(1) マタイ22:30 「天の天使たち」とは、良い天使たちのことである。

(2) 創世記6章は、墮天使たちのことである。

(3) 人間も、天においては結婚しないが、地上では結婚する。

(4) 天使には性別がないのか?

① 天使が目に見える形で現れた場合は、常に若い男性。

* 創世記18:1~19:22、マルコ16:5~7、ルカ24:4~7、使徒1:10~11

② 天使は常に男性形で表現される(女性形でも、中性形でもない)。

③ 天使は霊体を有する。

④ 天使には、出産能力がない。

⑤ 天使は天使を生まないが、ここでは超人間的なものを生んでいる。

5. どうしてサタンはこのようにしたのか。

(1) 創世記3:15 「女の子孫(種)」

① サタンに向かって語られた言葉である。

② サタンは、人間の女のかたちを破壊し、「女の子孫」の誕生を妨害しようとした。

(2) 創世記3:6との比較

① 見た、美しかった(良かった)、取った。

② アダムとエバは、神と人の垣根を越えた。

③ 墮天使たちも、同じようにして、人と天使の垣根を越えた。

④ 「いかにも美しいのを見て」とは、性的欲望を示す言葉。

II. 神の反応(3節)

1. 「わたしの霊」 創世記6:3に聖霊への言及が出てくる。神の三位一体性を表す。

2. 人間は肉、永遠に生きることはない。

3. 120年、洪水までの期間

(1) 神は120年間、人が悔い改めることを待たれた。

(2) I ペテロ 3 : 20

「昔、ノアの時代に、箱舟が造られていた間、神が忍耐して待っておられたときに、従わなかった霊たちのことです。わずか八人の人々が、この箱舟の中で、水を通して救われたのです」

III. 雑婚の結果（4節）

1. ネフィリム 巨人ではない。超人のこと。

2. LXXの訳はgigentes（ギゲンテス 英語のジャイアンツの語源）。

(1) ギゲンテスとは、タイタンのこと。神と人の子ども。超人である。

(2) LXXがネフィリムをギゲンテスと訳したために、巨人という理解が生まれた。

(3) 民数記13 : 33。スパイの虚偽報告。

「そこで、私たちはネフィリム人、ネフィリム人のアナク人を見た。私たちには自分がいなごのように見えたし、彼らにもそう見えたことだろう」

3. ネフィリムは、洪水によって滅びた。

4. 創世記とギリシア神話の比較

(1) 実際に起こったこと、それを基に作られた歪められた話。

(2) 創世記で否定的に描かれていることが、ギリシア神話では肯定的な物語となる。

(3) 洪水の目的は、雑婚をした墮天使たちと女たち、そこから誕生した超人を滅ぼすこと。

5. 新約との関係

(1) II ペテロ 2 : 4～5 あるグループの天使の幽閉

「神は、罪を犯した御使いたちを、容赦せず、地獄に引き渡し、さばきの時まで暗やみの穴の中に閉じ込めてしまわれました。また、昔の世界を赦さず、義を宣べ伝えたノアたち八人の者を保護し、不敬虔な世界に洪水を起こされました」

①タータラス（暗闇の穴）は、アブソス（アビス）（底知れぬ所）とは異なる。

②墮天使は、そこから出るこなしに白い御座の裁きを受け、火の池に投げ込まれる。

③同じ悲劇が起きないように、これらの墮天使たちを幽閉しておく必要があった。

④ 墮天使たちの裁きのタイミングは、洪水が起こった時。

(2) ユダの手紙6～7節

「また、主は、自分の領域を守らず、自分のおるべき所を捨てた御使いたちを、大いなる日のさばきのために、永遠の束縛をもって、暗やみの下に閉じ込められました。また、ソドム、ゴモラおよび周囲の町々も彼らと同じように、好色にふけり、不自然な肉欲を追い求めたので、永遠の火の刑罰を受けて、みせしめにされています」

① 雑婚によって人間の領域に入り込んだ。

② 「暗やみの下」(タータラス)に閉じ込められている。

③ 大いなる日の裁き 白い御座の裁き

④ ソドムとゴモラの罪 性的罪

* 不自然な肉欲 同性愛

* 墮天使が人間の女性に対して抱いた不自然な肉欲

IV. 神の介入(5～7節)

1. 罪の拡大のゆえに、裁きが必要。

2. 「ご覧になった」とは、神の評価。

(1) 外側の罪

(2) 内側の罪 意図的、自覚的な罪。

(3) 「計る」(5節)は、「ヤツァー」

① 創世記2:8 神は人間をデザインして造られた。

② 人間は、神から与えられた賜物を、悪をデザインするために用いた。

3. 神の悔やみ

(1) Iサムエル15:11

「わたしはサウルを王に任じたことを悔いる。彼はわたしに背を向け、わたしのことばを守らなかったからだ」それでサムエルは怒り、夜通し主に向かって叫んだ。

(2) Iサムエル15:29

「実に、イスラエルの栄光である方は、偽ることもなく、悔いることもない。この方は人間ではないので、悔いることがない」

(3) これは矛盾ではない。擬人法。

① 神は悔いることがない。人の目にはそのように見えるだけ。

② 神の人に対する態度は、従順か、不従順かで異なる。

4. 神の痛み

- (1) 消し去ろう。取り除くこと。
- (2) 人、家畜、はうもの、鳥。魚は出てこない。水による裁きだから、魚は生き延びる。
- (3) 神は残念に思われた。

V. 恵みの要素（8節）

1. 日本語訳比較

「しかし、ノアは主の前に恵みを得た」（口語訳）

「しかし、ノアは、主の心になんてなっていた」（新改訳）

「しかし、ノアは主の好意を得た」（新共同訳）

2. ノアは、周りにいた罪人たちのようには歩まなかった。

- (1) 彼には罪がなかったということではない。
- (2) 神はノアに恵みを与えた。

3. ノアの義とは、何か。

- (1) 神のことばを信じる信仰による義
- (2) ヘブル11：7

「信仰によって、ノアは、まだ見ていない事らについて神から警告を受けたとき、恐れかしこんで、その家族の救いのために箱舟を造り、その箱舟によって、世の罪を定め、信仰による義を相続する者となりました」

結論

1. ノアの洪水は、必然的に起こった。
2. しかし、ノアが選ばれたのは、必然ではなく、神の恵みであった。
3. ノアは神の恵み応答して、人類の歴史を再スタートさせる人物となった。
4. ノアは、いつの時代にも存在する「残れる者（真の信仰者）」の型である。
5. 私たちもまた、ノアのように「主の前に恵みを得た」のである。